

生きて働く力を育む国語教室

言葉による見方・考え方を働かせ、 深まる学び

三観・仁尾中 藤村章太

1 授業実践

- (1) 単元名 「幸せの形とは」
(野矢茂樹「幸福について」、YOASOBI「もしも命が描けたら」)
- (2) 単元について
 - ① 「幸福について」は筆者が目撃した3人による会話形式で「幸福」とは何か議論が進められていく中で、その合間に聞き手としての筆者が考えを述べていく説明的文章である。「幸福」について多面的に考えていく思考の様子が見て取れ、考えを広げたり深めたりする方法を学ぶことは、今後の言語活動を進めていく上で意義の大きいことであり、学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕における「C 読むこと」の指導事項「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つこと」と関連する。また、3人の役割に注目すると、議論の流れを踏まえて論点を整理したり話題を絞ったりと、課題の解決に向けたよりよい議論を進めるための手がかりが含まれている。
 - ② 本学級の生徒は、国語科の授業に対して前向きな態度で臨んでおり、1学期末に実施したアンケートでは、「国語科の授業が好きですか」という質問に94%の生徒が肯定的な回答をしている。1学期に学習した文学的文章の「百科事典少女」では登場人物の名前の由来や象徴的なものについて、それぞれの考察を交流し合いながら読みを深めることができた。一方で、説明的文章の「絶滅の意味」では段落構成の読解や

筆者の主張を捉えることに苦手意識を抱いている生徒が多かった。話し合い活動においては、「相手の意見をしっかりと聞こうとしている」「思ったことを発言するようにしている」生徒が半数以上いる中で、話し合い自体が苦手だと感じている生徒が15%いた。

- ③ 指導にあたっては、次の点を手立てとして講じたい。
 - ・ 範読の時に代表生徒に役割分担をさせて音読を行い、興味をもちやすくするとともに、「議論の仕方のだいたいな技術」を考えるきっかけを作る。
 - ・ 「幸福」とは具体的にどのような状態のことを表すのかを話し合う際には、まずは自分が何をしているときに「幸福」だと感じるかを交流し合うことで、活発な雰囲気作りを行う。
 - ・ 単元のまとめとして、実生活でよく目にする J-POP の詩を読んで自分の考えを深める活動を設定することで、授業で学んだことが自分の身近なところで活用できるのだと実感させる。

2 学習目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
- (2) 「議論の仕方のだいたいな技術」を捉え、「幸福」とはどのようなものであるかについて自分の考えをまとめることができる。
- (3) 本文を読んで議論の仕方や考えの深め方に気づくとともに、学習課題について考えたことを積極的に語り合おうとする。

3 学習指導目標

- (1) 本文を通読した後、「議論の仕方のだいたいな技術」について考える。…1時間
- (2) 議論の場面から、どのような観点で「幸福」について考えているかを捉える。…2時間
- (3) YOASOBI の「もしも命が描けたら」を読んで、「僕」の最期は「幸せ」といえるかについて考える。…2時間（本時2/2）

4 本時の学習指導

(1) 題材 野矢茂樹「幸福について」、YOASOBI 「もしも命が描けたら」

(2) 目標

- ① 詩を読んで「幸せ」を具体的、抽象的に言い換えて考えることができる。
- ② 「僕」の人物描写を参考に、「幸せ」といえるかどうかを考え、自分の言葉で表現することができる。
- ③ 論点を整理したり、具体例や抽象化を意識したりして意見を交流しながら、学習課題に対する自分の考えを粘り強くまとめようとする。

(3) 学習指導過程 (★：好奇心を探究心や自信へと変えるための工夫)

学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び支援活動
1 前時の復習をする。 2 学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストを5問出題する。 ・ 前時の内容である、詩の登場人物の関係性や「僕」について読み取ったことを確認する。 ★ 詩から読み取ったことをもとに、課題について議論を進めることを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> (学習課題) 「僕」の最期は「幸せ」といえるか </div>	
3 学習課題について考える。 (個人→班→全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「幸福」と「幸福感」をどう捉えるかを意識させる。 ★ 「僕」がどんな行動をとっているか、どんな気持ちであるかなどを根拠として「幸せ」といえるかどうか個人で考えさせる。 ★ 個人が考えたことについて、詩の中から根拠をもって交流をさせるために3～4人組の班を作らせる。 ・ 意見を可視化するため、黒板に名前磁石を貼らせる。 ★ 全体で意見を交流する際には、「議論の仕方のだいたいの技術」を復習し、どちらの意見が正しいかを定めるわけではないことを確認する。 ★ 追発問として『僕』にとって幸せの基準は何かを問ひかけ、話し合いで出てきた具体例を抽象的な言葉で言い換えて考えさせる。
4 振り返りとまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 全体での話し合いを踏まえて、本時の振り返りをワークシートに記入させる。 ★ 最後にまとめとして、具体化と抽象化を繰り返すことが議論や考えの深まりに繋がることを伝える。

(4) 評価

- ① 詩を読んで「幸せ」を具体的、抽象的に言い換えて考えることができたか。
- ② 「僕」の人物描写を参考に、「幸せ」といえるかどうかを考え、自分の言葉で表現することができたか。
- ③ 論点を整理したり、具体例や抽象化を意識したりして意見を交流しながら、学習課題に対する自分の考えを粘り強くまとめようとしたか。

5 成果と課題

話し合いでは、「僕」は大切な人のために命を捧げ、満足して(幸福感を得て)いるから幸せだとする意見や、助けた後に「あなた」と「彼」が生活を続けていくことが本当に「僕」にとって幸せなのかという意見が挙げられ、生徒たちは悩みながらも考えられていた。教師側からの具体化や抽象化がうまくできず、意見を羅列していたので、事前の想定を練るべきであった。今回取り扱った題材の性質上、道徳の授業とも捉えられてしまうため、本文を根拠として話し合いを進めることを生徒たちに意識づけることを続けていきたい。